



死刑がない世界を共に感じていきませんか！

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会
<https://sobanokai.hanami-zake.com/>

こんにちは。わたしたちは毎月一回、東京拘置所の最寄り駅である綾瀬駅前で「死刑について考えてみませんか」というビラを道行く人に配っているグループです。

このネット社会の中で、無作為にビラを配布していくことが、どれだけ有効なのかは分かりませんが、「ビラは歴史をつくり、歴史を記録する。片々たる紙片に凝縮されたメッセージによって世界の断面をてらしたし、ひとびとが歴史に参加する道を切り拓かなければならない」という「ビラの精神」を書いた、ジャーナリストの言葉を道筋にして、受け取った人が何かを感じてくれていることを信じて二七年間続けています。

今、日本では死刑の執行がない状態で二年以上の月日が経っています。

昨年には袴田巖さんの冤罪が明かされたこともあり、死刑という「命を命で償う」在り方に、慎重になっていく兆しが見えている状況としたいと思います。

無実であったとしても、警察での過酷な取り調べがあり、起訴されてからの検察の問答無用な供述調書の作成がある中で、冤罪が有罪として断定された事例が限りなくありました。

大阪の西成で居酒屋「はな」を経営し

ながら、「日本の冤罪」をまとめた、尾崎美代子さんが検証した中でも一六件あります。
冤罪がある中では死刑の存置に疑問を持つ必要があるのではないのでしょうか。



大阪・西成の居酒屋「はな」のママが、弱者に寄り添い、事件の実相を真摯に伝えるタブーなき冤罪検証ルポルターージュ！

平穏な生活を送っている市民が、いつ、警察に進行され、無実の罪を科せられるかわからない。今の日本に住む私たちは、実はそういう社会に生きている。(井戸謙一/弁護士・元裁判官)

鹿野社

昨年一月に政府が行った世論調査の結果でも、「死刑はやむを得ない」が八三・一%で、「死刑を廃止すべき」は一六・五%ですから、死刑制度を認める傾向がもしもありませんが、冤罪になる者が多い司法の中で死刑の執行は取り返しがつかないことになります。また日本で再審が認められるのは、全判決から年に一件か二件と開かずの扉になっています。

冤罪の悲劇を繰り返さないためにも、そして公平に再審を行い死刑制度がない共生の世界が来ることを信じて、私たちはこれから、ビラを配布していきます。(S・Y)